

Herre, A. W. 1935. Philippine Fish Tales. Oriental Commercial Company, Inc. xix + 302 pp. (1952年に D. P. Perez Company, Manila が復刻版を出している)。

フィリピンの魚を紹介する本。対象は子供たちあるいは大人になった元子供たち。魚をグループごとに取り上げ、その生物学だけでなく、人との関わりやそれにつながる話などをやさしく解説している。写真、絵も多く使われ、また所々に Words for study と Questions が設けられ、読みながら魚のことを勉強するように工夫されている（例えばハタの項の後ろには、Questionsとして「Describe the lapo-lapo (ハタの地方名)」とか「Why is the large lapo-lapo greatly feared by fishermen?」とかの設問がある）。

Herre, A. W. 1938. Stories of Philippine Fishes. Oriental Commercial Company, Inc. xx + 288 pp. (1952年に D. P. Perez Company, Manila が復刻版を出している)。

フィリピンの Agapito という少年を主役とした物語。海、渚、砂浜、そして熱帯の魚たちと少年との触れ合いを、物語として綴った本。対象は小学生位で、各章には問題が設定されており、楽しみながら勉強する副読本といった本。

本書の成立ちは、著者がフィリピンでの魚類の研究をとおして学んだサカナたちの生活にヒントを得て、少し

づつ書きためたものであるという（詩もありばめられている）。本書の Preface を読むと、Herre という人がいかにフィリピンの自然、人々を愛していたのかがよくわかる（例えば、「世界中でフィリピンほど美しくまた奇抜な魚が見られる所はない」とか「色々な地方の漁師、真珠採りの潜水夫だけでなく農家の人々から多くのことを学んだ」とか…）。

これらの文献がフィリピンの魚類に関するものすべてであるとは考えていません。むしろ今回は短期間に私の目に触れたものを収集したもので、まだまだ有用な文献があるものと思います。読者の皆さんのお手元にも、「なんだ、これも知らないのか」とか「私はコレでフィリピンの魚類を同定しました」といった文献がありましたら、是非ともお教えください。

なお最後になりましたが、文献の収集にご協力いただいた東京水産大学魚類学研究室の多紀保彦教授と学生の皆さん、国立科学博物館の松浦啓一博士および東南アジア漁業開発センター図書館の Ms. Amelia Arisola に深謝いたします。

(河野 博 Hiroshi Kohno: 〒108 東京都港区
港南4-5-7 東京水産大学魚類学研究室)

会 記・Proceedings

魚類学雑誌
41(3): 355-358, 1994

1994年度第1回役員会

1994年5月12日(木)、於 東京水産大学資源育成学科会議室、出席者：沖山、尼岡、松浦、佐野、宮、河野、馬場、大竹、林、瀬能、藤田。

役員会のメンバーが大幅に代わったため、自己紹介後に役員会が開かれた。

- 前回議事録の確認。
- 報告事項 会長：国際生物学賞の候補研究者（系統・分類分野）として、名誉会員の John E. Randall

博士を推薦した。編集委員、評議員で活躍された富永義昭氏が5月3日に逝去された、ご冥福を祈るとともに、学会から弔電を喪主にさしあげた。編集：41巻1号は5月20日発行の予定。掲載論文15篇。手持ち原稿53篇、会計：1994年度年会収支決算報告。

- 1994年度年会の反省：総会出席者が少ないための対策として講演後に引き続いて総会を開いたが、例年と変わらず、今後の検討が必要。サテライト研究集会の企画を魚雑で公募する。休憩室の騒音が講演室に影響しないような工夫、プロジェクターなどの機器の更新など意見が出され、今後検討することにした。
- 魚類学雑誌が2年後に欧文誌、和文誌になるが、その表紙と journal 名をどうするか、次回の役員会ま

でに案を編集委員会が検討することになった。

5. 今年度開催されたサテライト研究集会（企画者：長田、細谷氏）の内容を緑書房から出版予定だが、魚類学会監修として欲しいとの企画者から依頼があった旨、松浦氏から報告があった。内容には問題がないが、魚類学会監修という制度は今までないため、種々検討した結果、今回は企画者の一人が魚類学雑誌の編集委員であることと、編集委員長が査読することを条件に認められた。今後、このような企画がでてきた場合、編集委員会がチェックし、役員会に諮ることに決まった。
6. その他。

1994年度第2回役員会

1994年9月12日(月)、於 東京水産大学資料館2階会議室、出席者：沖山、藤田、大竹、瀬能、馬場、林、松浦、宮、田代(学会事務センター)。

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 会長：1994年度シンポジウム開催にあたり、魚類学会から20万円、水産学会から15万円の援助が行われる。編集：41巻2号は期日どおり出版された。41巻3号は11月15日発行の予定で、掲載論文数は未定。手持ち原稿48篇。会員名簿の作成に関する編集作業は9月末で終える。庶務：定期刊行物に対する文部省からの助成金は261万円。法兰クフルトで開催されるブックフェアに魚雑を展示するための申込を行った。第16期動物研究連絡委員候補者として本会から新井良一氏を推薦した。
3. 1995年度の海外購読料および支払額に関する改訂案が検討され、購読料は94年度と同額(95ドル)とし、レートは1ドル=95円で計算することになった。
4. 学会事務センターより会費の預金口座自動引き落としの実施が平成7年度より可能になる旨説明があり、利用することに決定した。その際、初期登録費と引き落とし手数料は会員個人の負担とする。
5. 自然史学会連合への参加要請に対して、参加することに決定した。
6. 1995年度年会は東京水産大学において、1995年3月28日(編集委員会、評議員会)および29、30日(研究発表)に開催することに決定した。
7. その他。

会員異動(1994.6.1~1994.8.31)

[REDACTED]

[REDACTED]
ta,

[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]